



# 日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.8.17 No. 3270

## 8/4 ヒロシマ 被爆45周年 9 ナガサキに参加して



あつまれ長崎・結集集会

広島・長崎に人類史上初の核兵器、二発の原爆が投下され、四五周年を迎えた。  
一瞬にして広島で一四万人、長崎で七万人もの命を奪い、また被爆から数十日で死亡した人、また強制連行され日本に於いて被爆した朝鮮・中国人民などを合わせると、三〇万人を越す死者、そして今なお数十万人の人

々の心身をむしばんでいく。  
「火の球の中心温度は三〇万度、爆心直下の地表では三千〜四千度になりました。」(原水禁パンプより) こうして「閃光と同時に衣服は燃え落ち、皮膚はボロのようにただれ落ち、それを引きずっては群れ歩き、そして力つきては倒れていった。」と語られている。

被爆四五周年の今年、私は八月四日から九日まで広島・長崎反戦闘争に参加し、原爆ドーム、慰霊碑などツメ跡をかいま見、被爆者の話を聞き、全国で反戦・反核を闘う人々との交流を持つ中で、あらためて戦争に反対するとはどういう事なのか、私達労働者は何をしなければならぬのかを考えさせられた一週間であった。

### (8/6 広島)

四日、広島に着くと、ただちに平和行進で原水禁世界大会の会場、中央公園に向かう。社会党・共産党の原水禁運動の分裂、また総評の解散「連合」の結成など、労働運動から反戦の声をおしつぶし、再び労働者を侵略戦争へとかりださんとする攻撃の中で、多くの人が結集した。  
今こそ社・共の屈服や誤った「指導」を乗り越える反戦・反核の闘いが問われていると感じた。



翌日、午前中を分科会、夕方から広島反戦集会に参加し、「天皇とヒロシマ」と題する記念講演、三里塚北原氏を始め、全国で反核・反原発を闘う住民のあいさつがなされ、反戦被爆者の会からの基調報告と熱気みなぎる集会が勝ちとられた。  
続いて六日は、八時から中国電力本社前におい

て、中国電力内部で反原発を闘う電産中国の仲間達がすわり込み闘争に入る。労組交流センターの仲間達と共に連帯のすり込みを行う。デモで通りかかった労働者から「電産ガンバレ」の声がかかる。その後、平和公園での集会、反核フィードバック(慰霊碑めぐり)のち長崎へと移動した。

### 訃報

館山支部組合員加藤文夫さん(四五歳)は、病氣療養中のところ、薬石効なく八月一四日急逝いたしました。

謹んで哀悼の意を表します。

告別式 八月一八日一三時

館山市稲二五一、九重駅より徒歩十分

つづく